

2023 Annual Report

to IMPACT

JCI 
Chitose

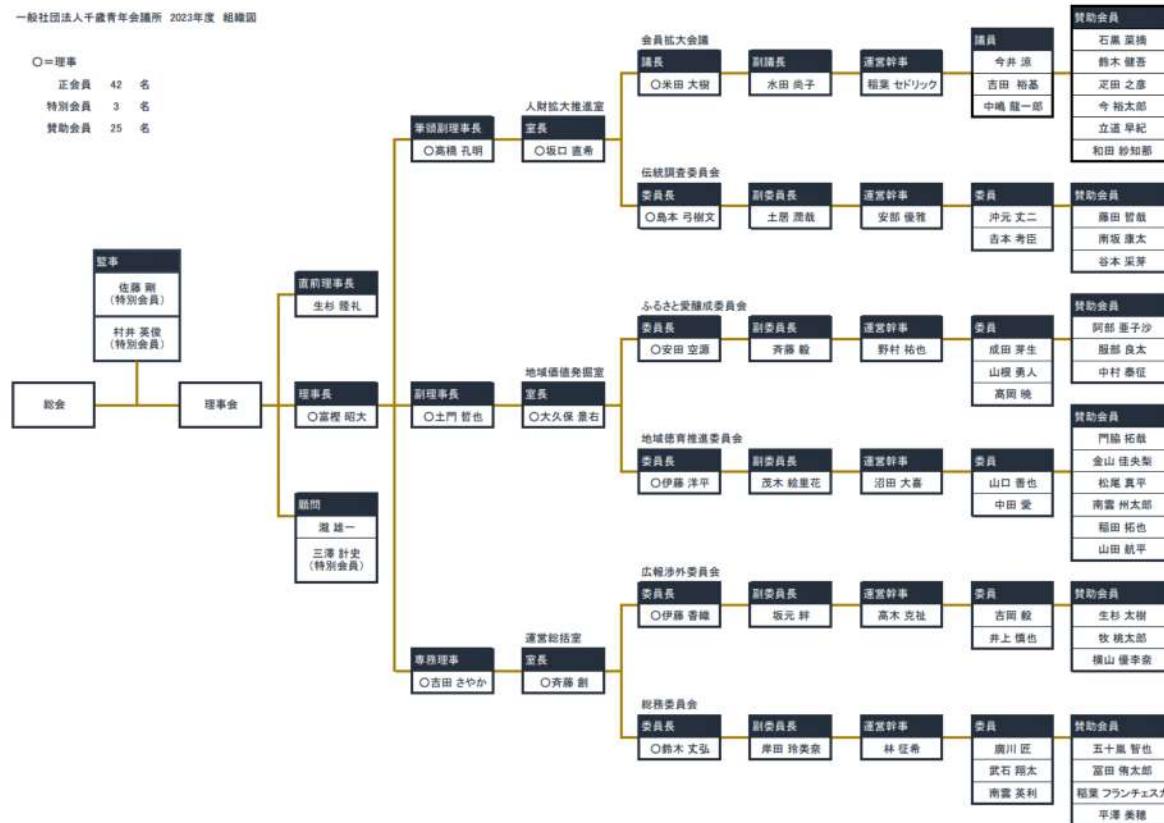
JCI chitose

contents

- 2 組織図
- 4 理事長報告
- 6 副理事長専務理事報告
- 8 例会・事業報告
- 19 PICK UP PICTURE
- 20 JC Women特集
- 22 委員会活動報告
- 25 室ギャラリー
- 26 出向者対談
- 28 出向者報告
- 30 京都会議2023
- 31 道央エリア事業
AWARD2023
- 32 特別会員褒賞
- 34 会員褒賞



2023年度 組織図



一般社団法人千歳青年会議所 2023年度 正会員リスト

1	理事長	富樫 昭大
2	直前理事長	生杉 隆礼
3	筆頭副理事長	高橋 孔明
4	副理事長	土門 哲也
5	専務理事	吉田 さやか
6	顧問	瀧 雄一
7	人財拡大推進室 室長	坂口 直希
8	地域価値発掘室 室長	大久保 景右
9	運営総括室 室長	齊藤 創
10	会員拡大会議 議長	米田 大樹
11	会員拡大会議 副議長	水田 尚子
12	会員拡大会議 運営幹事	稻葉 セドリック
13	会員拡大会議 議員	今井 涼
14	会員拡大会議 議員	吉田 裕基
15	会員拡大会議 議員	中嶋 龍一郎
16	伝統調査委員会 委員長	島本 弓樹文
17	伝統調査委員会 副委員長	土居 潤哉
18	伝統調査委員会 運営幹事	安部 優雅
19	伝統調査委員会 委員	吉本 考臣
20	伝統調査委員会 委員	沖元 丈二
21	ふるさと愛釀成委員会 委員長	安田 空源
22	ふるさと愛釀成委員会 副委員長	齊藤 毅
23	ふるさと愛釀成委員会 運営幹事	野村 祐也
24	ふるさと愛釀成委員会 委員	成田 芽生
25	ふるさと愛釀成委員会 委員	山根 勇人
26	ふるさと愛釀成委員会 委員	高岡 晓
27	地域德育推進委員会 委員長	伊藤 洋平
28	地域德育推進委員会 副委員長	茂木 絵里花
29	地域德育推進委員会 運営幹事	沼田 大喜
30	地域德育推進委員会 委員	山口 善也
31	地域德育推進委員会 委員	中田 愛
32	広報涉外委員会 委員長	伊藤 香織
33	広報涉外委員会 副委員長	坂元 純
34	広報涉外委員会 運営幹事	高木 克祉
35	広報涉外委員会 委員	吉岡 毅
36	広報涉外委員会 委員	井上 慎也
37	総務委員会 委員長	鈴木 丈弘
38	総務委員会 副委員長	岸田 玲美奈
39	総務委員会 運営幹事	林 征希
40	総務委員会 委員	廣川 匠
41	総務委員会 委員	武石 翔太
42	総務委員会 委員	南雲 英利



理 事 長 告

2023年度
一般社団法人千歳青年会議所
第60代理事長

富樫 昭大

WORLD PEACEへの願い

2022年の2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻により世界情勢が極めて不安定なままスタートを切った2023年。

世界平和、WORLD PEACEへの願いと共に走り出したものの願い届かず、イスラエルとハマスの衝突も始まり毎日多くの人々の尊い命が失われ続けており、世界に広がる憎悪の連鎖は今この時も尚、間違った方向に舵を切り出しています。それらの戦争や紛争に加えて、止まらない世界の気候変動、解を求めることができない環境問題、広がる教育格差、不安定な医療、人権やジェンダー問題、宗教問題、国内で言えば少子化、高齢化問題など、自分たちがこの国際組織で活動する意味は何なのか、この組織の存在価値は一体どこに、誰のためにあるのだろうか。

皆に今一度考えてもらいたい、触れてもらいたいとの一心で、まちづくりにも人づくりにもそれら課題と掛け合わせることにより活動の在り方を考えました。

さらに、理事長である私自身が誰よりもこの組織体制、組織運営に対して違和感を抱きながら、更に魅力ある組織にしていきたい、このまちを、市民の方の心を目に見える形で動かしていきたいとの強い想いで、様々な変化をポジティブに捉え繰り返しながら世界と向き合ってまいりました。

目標達成までのストーリー

会員拡大会議では、具体的な数値目標を共有することによる50%

拡大を一つの合言葉に、1年間のストーリーを描くことにより迷い

のない行動で拡大運動に挑んだ結果、若い組織に確かな自信をもたらしてくれましたし、今年度は私たちの組織の魅力に共感いただいた30名以上のメンバーが入会を決断してくれました。会員拡大が成功するのか失敗するのかというのは、組織の価値そのものを表していると言っても過言でないと考えています。直接的に青年会議所の理念を伝えて入会を勧めるのは効果的ではないとの見解から、私たちにできることはない、青年会議所ならどんなことでも挑戦できるといった姿勢を新会員や対象者に実行動で示すことにより組織価値を全面的に押し出す拡大手法を推進してきました。具体的に市内の新入学1年生に向けて青年会議所が監修した「おやくそく」をテーマとした絵本を作り全児童に配布したいとの想いで実施された例会は、これまで培ってきた個々の能力や多様性から生まれるアイデアを最大限に活かすスタンスを証明できました。

歴史への想い

伝統調査委員会は、とにかく靴底を減らして歩くことを決断してくれた。私たちの組織的価値の中でも大きな魅力であり支えとなっているのが、160名を超える千歳青年会議所OB会先輩

諸兄姉との連携にあります。近年の拡大運動により会員数が飛躍的に伸びる一方で、圧倒的経験値不足や受け継がれる歴史との向き合い方を模索していく為にも、OB連携専門の委員会設置の必要性を強く感じ決断しました。おおよそ3年間にわたり苦しめられた新型コロナにより対面でのあらゆる機会が奪われ、それは長きにわたり築き上げてきた強固なつながりや関係性に一定の影響を及ぼしていると感じていました。時代の流れの速さに圧倒され1年先の未来ですら予測することも難しく感じる中においても、決して忘れてはいけない想いがあります。今年度多くの先輩諸兄姉からかけていただいた「ありがとう」に心が震えました。後ろを振り返るだけで留めるのではなく歴史に関心をもつこと、原点の先に堂々と燃え続ける炎があることを改めて知ることができました。

まちづくりにマニュアルなし

市民の皆さんのが郷土愛に溢れこのまちに住み続けたいと思ってもらうにはどうしたら良いだろうか。新たな文化を創出するには既存の文化を知ることが必然であり、身近すぎて見つけにくい原石に視線を送ることで生み出される価値を最大限活かすべく挑戦を重ねた1年でした。

国際空港を有し、大企業がここ千歳市に進出するなど世間的には明るいニュースで活気を帯びるなか、未来ある子供たちは今何を思っているのか。ふるさと愛醸成委員会は、学生たちがこのまちの未来に対する夢をプレゼンするリアルな言葉から聴衆の心を揺れ動かして持続的なふるさと愛を醸成したい想いで千歳ドリームコンテストの開催にたどり着きました。参加チームへの育成プログラムから大人の本気を見せ、結果オンデマンドバスの普及から交流人口の活性化を願った学生のアイデアが最優秀賞に輝き、事業後も行政や公共交通協議会等において議論が重ねられた事実は、私たちと学生双方においても抱いた夢に対する向き合い方次第で変化する望む未来との距離感を感じたそんな経験になりました。



未来への約束

エネルギー高、物価高、みんなが違和感を抱いている気候変動問題など、この世界は確かにつながっていることを再認識するには重すぎる現実が突きつけられています。

その問題が我々の生活と密接な関係にあることをまずは強く認識することが必要でした。

地域德育推進委員会は、今年構想から10周年を迎えた千歳リバーシティプロジェクトにおいて世界的課題を身近に感じてもらうことに焦点を定め、ウクライナ避難民やJICAをパートナーとして加えるとともに、地球環境に及ぼすリスクへの理解や現代テクノロジーにおいて必要不可欠な半導体についてのブース出展により、「今」を見つめる時間を創出しました。この事業の未来に対する存在価値を明確に示すことは難しかったかもしれません、紛れもない事実は私たちが成すべき使命は今年度だけの打ち上げ花火ではなく常に一步も二歩も先を見据えて運動を熟考していくことです。河畔公園に眠る小さなタイムカプセルに乗せた子供たちの夢が実現している未来を願い、私たち自身がその懸け橋となって活動していく気概をこの継続事業から高めることができました。

笑顔づくり

広報渉外委員会は、とにかく少しでも多く千歳から出る機会を作ること、きめ細かな内部広報を通じ、外の世界で多くのメンバーと団結や交流を図りました。たくさんの外部事業も担当することでタスク満載のなか、「笑顔」を一つのキーワードとしたプライドでリードしてくれました。そのおかげで各種会議や大会においても例年ない多くのメンバーが参加してくれましたし、緊張感が沸き立つ瞬間を体験した積み重ねから個々の成長を陰でバックアップするという扱いを最後まで全うしてくれました。振り返ってみれば想像以上に広報することが多くて情報をまとめるだけでも一苦労、特に入会間もないメンバーに対して丁寧に伝える手段を模索しながらも次につながる良い事例をいくつも生み出してくれました。組織の存在価値を地域の皆さんに示す前には自分たちがこの組織に誇りを持つことが必要で、一丸となってその目的達成に立ち向かい乗り越えることができました。

変える勇気

総務委員会は、多くの「変化」にポジティブさを付け加えて対応してくれました。今年度は会議クールに大きく変更をかけ、何よりも機会の提供に目線を置き、自分の胸に付けている役職にプライドを持ってもらうことが最重要でした。なぜ変化が必要なのか、どういう運営を目指しているのか、改革初年度ということもありフォロワーメンバーまで説明が行き届かず組織に浸透させることができなかったと思っています。そんな半信半疑の想いが脳裏をよぎるなか、会議クールはどうあるべきなのかを検証する場を設けて、今の自分たちの時間の使い方を共有することができました。僕たちは自分たちで作ったルールでこのまちを動かすことができる。当たり前な運営なんて何一つない、2024年度を確かに見据えて具体的に示すことができた一年になりました。

副
理
事
長

報告

筆頭副理事長 高橋 孔明



本年度は富樫理事長が掲げたスローガン「to impact」のもと、人財拡大推進室と会員拡大会議と伝統調査委員会の担当副理事長として活動してまいりました。今年度の会員拡大では多くのメンバーが入会するきっかけとなりました。2月例会では、それぞれが抱える課題への向き合い方を考えるべく、目標設定の重要性を理解していただき社業やJC活動へ活かす内容となりました。8月例会では、JC運動がまちやひとの意識が変わることをメンバーに伝え、運動に携わったメンバーがJCに価値を見出していくことでフォローアップにつなげました。9月例会では、千歳青年会議所の先輩諸兄姉に運動の歴史や伝統を聞く機会をいただきました。ヒアリングをする中で、歴史や伝統を知ることも大事ですが、現役時代の話しをしていただく先輩諸兄姉のJCに対する熱量を改めて感じることができ刺激を受けるメンバーが多くいました。過去を知ることで今後のJC活動に活かすことが目的でしたが、熱量から組織のマインドも変わるきっかけになりました。多くのメンバーと出会い、先輩諸兄姉の歴史と伝統を紡ぐ一年となりました。

副理事長 土門 哲也



まちづくりと青少年育成という本年度の千歳青年会議所が推進する2つの運動を担当する地域価値発掘室に対して、「世界が見えるまち千歳」「圧倒的原体験」というキーワードが示されている中で、1年後のゴールイメージを共有することが重要であると予定者の時期から指摘され続けてきました。その中で、ふるさと愛醸成委員会と地域德育推進委員会に対しては明確な指針を示しきることができずにスタートさせてしまった2023年当初より、計画が思うように進められず議案の取り下げが続くなど室長と委員長を初めとするメンバーには大変な苦労をかけてしまいました。理事長の描いた運動に対する思いを汲み取り、委員会に伝えるために副理事長が果たすべきリーダーシップと責任は大きなものでした。しかしそのような状況において両委員会は、高校生と大学生のアイデアによって市議会を動かした6月例会や中学生をはじめとする子供たちに国際交流とゼロカーボンへの取り組みを通してワクワクする未来を描いたRIVER CITY PROJECT - CHITOSEみらいEXPO-を実施するなど個性を生かして地域へインパクトを与えることができました。

専務理事 報告



2023年度、専務理事として富樫理事長が掲げた「to impact」をスローガンに、当会議所がインパクトのある運動、活動を行えるようにと組織全体の連絡調整を行い、入会間もないメンバーも含めメンバーを取り残すことのないように密なコミュニケーション取って参りました。そして、運営総括室のラインの長としての役割を通して、総勢71名の会員の皆さんの活動をより広く広報し、日々の円滑な運営を行うために委員長、室長と共に日々の活動を進めて参りました。対外では、理事長の公務に随行するために各地に訪問し、当会議所を支えていただいている各地青年会議所、関係諸団体の皆様とお会いする機会が増え、深く広いつながりを構築することができました。今の組織だからこそ、今の時代だからこそ何が必要なのかを見極め、勇気をもって変化をさせていくために惜しみなく挑戦していく、力強く邁進する富樫理事長体制で大きな学びとインパクトを与える結果となったと思います。この1年間本当に貴重な経験を専務理事として積ませていただいたことに深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

。 。 。





2023年度 例会開催報告

TO IMPACT



1月

新年交礼会 to Impact

新年交礼会では新体制の披露をすると共に、千歳青年会議所の1年間の運動や事業の方向性を参加いただいた方にお示しすることで運動へのご理解をしていただく内容といたしました。



富樫理事長の新年の挨拶をはじめとする日頃からのご協力に感謝の気持ちを込めて、千歳青年会議所メンバーが1年間の運動や事業に全力で取り組んでいくスタートを切ることができました。

2月

異業種交流会 ～情報は宝だから！～



多くの对外参加者に参加いただき、現在それぞれの抱える課題に対して、講師の覚張氏の講演を聞き目標設定の大切さを改めて考えていただく内容といたしました。参加された对外参加者の中から入会を決めた方、入会を検討する方がいらっしゃったことで今後の会員拡大にもつながる例会とすことができました。



3月

千歳の歴史とミライ、 のぞいてミナイ



千歳の既存の価値を新たな魅力として昇華させる内容を構築し、北海道千歳高等学校BSCの皆さんをパートナーに千歳神社での例会開催といたしました。



「あなたが千歳に抱く夢～いまとあるものを、まちの名物へ～」と題し、学生を交えたワークショップを行い、斬新なアイデアの内容にブラッシュアップすることでより良い未来を描く内容としました。歴史や伝統文化の価値という観点から広い視点からの千歳市の未来を見つめることができた例会とすことができました。



4月



「海外の人と文化にふれる異文化交流！」 ～人と自然との出会いが待っている～

千歳市内の中学生と外国人を対象にフィンランドのスポーツ「モルック」を通して交流する内容といたしました。千歳市で活躍しているアーティストのヤシンスカ・オレナ様と連携し、モルックにペインティングを行い、ウクライナの国花であるひまわりをモチーフにした世界平和に向けたメッセージを込めた壁画を作成いたしました。日常生活にない外国の文化や人に触れてもらうことができた例会とすることができました。



5月

LOM-1グランプリ 「Union is strength ～団結は力～」



例会当日を迎えるまでに行ったチームビルディングの要素を取り入れたJC活動における役割と必要な行動を理解していただき、今後の委員会活動に活用することができる内容といたしました。また、当日に行うソフトボールをより楽しむために朝練や戦略を考え、作り上げた各チームの団結力の成果の場として、当日は笑顔溢れるプレーが多く、メンバー同士の人間関係の強化につながる例会とすることができました。



6月

未来を変える CHITOSE DREAMコンテスト



若者がまちづくりに取り組みやすい環境を創出する取組みとして、プレゼンコンテストという形で若者にアイデアを発表していただきました。

千歳高等学校より1組、千歳リハビリテーション大学より1組、日本航空大学校より2組に出場していただきました。



「あなたの描いた夢が千歳の未来を変える」をテーマに学生のアイデアをアピールする場を創出することで若者にチャンスを与える環境づくりを推進し、若者の声をより多くの市民に届け、より良いまちの姿を考える若者と柔軟に取り入れる姿勢の行政との双方向の関係を築くことができた例会とすることできました。



7月

3LOM合同例会 一人ひとりが輝ける組織へ



第一部の中で、主体的に取り組むという考えに直結するエピソードを話していただき中村圭先輩が入会3年未満のメンバーに視点を合わせ、悩みを解決に導いた成功体験を話していただきました。



2024年度理事長候補者が選出され次年度体制がスタートしていくタイミングにおいて、3LOMそれぞれの課題に対して向き合い、自LOMの例会だけでは得ることがない多様な価値観に触れて共に学びを得る機会とし、今後もより良い運動を推進するきっかけとなる例会とすることできました。

8月

JC運動が牽引する 千歳市の未来!!



ちとせでくらそ



本例会では、地域やまちの課題を絞り、その課題をどのような活動、運動を展開することで解決の糸口を見出し千歳の未来をどのように変えていくのかを話し合う内容といたしました。千歳に住む子供たちの安全課題を絵本に落とし込み、作成し配布するまで視野に入れ、まちをより良くする運動を起こすまでの動きとビジョンを見せることができた例会とすることことができました。



9月

伝統、継承！ あの青春をもう一度



創立メンバーの浅利陽次郎先輩に講演していただき、現役、OB会員の想い、熱量を共有し、少人数でグループディスカッションをすることで現役会員だけではなくOB会員同士もお互いを知ることにつながる内容といたしました。



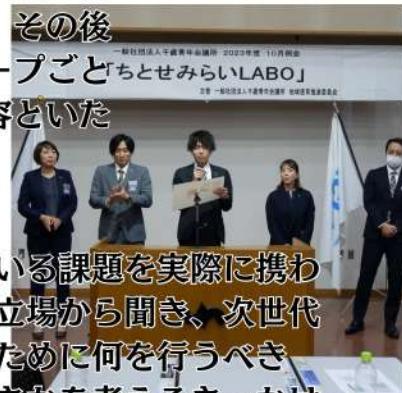
近年ではOB会員との交流がない、知っている現役メンバーがいないなどの課題解決に取り組み、当時の想いや熱量に触れることで入会歴の浅いメンバーでもOB会員と連携を取れる関係性を構築することができた例会とすることことができました。

10月

ちとせみらいLABO



本例会では千歳市立勇舞中学校の教頭に講師としてお越しいただき、学校側と子供側の両面から地域性をふまえて講話をいただきました。また委員会メンバーによるプレゼンテーションを行い、その後のグループワークを通してグループごとに地域学校協働活動を考える内容といたしました。



中学校で今起きている課題を実際に携わっている教育者の立場から聞き、次世代を担う子供たちのために何を行なうべきか、何を伝えるべきかを考えるきっかけとなり、今後の活動に活かせる例会とすることができました。

10月 第2

Let's meet at the committee



本例会はより良い会議はどういったものかを考え、定期的に開催する委員会や会議について、メンバーからいただいた意見をもとに、どのように行なえばより良い会議になるのかを導き出し、委員会プレゼンとグループワークを行う内容といたしました。



入会歴の浅いメンバーが多く在籍する当会議所の課題解決として、会議における重要性を理解していただき、だれもが参加しやすい会議を構築し、2024年度へ活用できる、開催側と参加側との双方向の関係強化につながる例会とすることができます。



11月

GO!GO! パトロール



本例会では地域の方々が住みやすく笑顔になるまちづくりを目指しパトロールを実施いたしました。今まで気付かなかった問題点を実際に現地に赴き、調査を行う内容といたしました。また、情報発信の観点からも青年会議所活動の周知を行いました。



メンバーの企業の方々にもご参加いただき、当会議所メンバーと共に活動していただきました。さらに、抽出した問題点を取りまとめ千歳市に意見書を提出し、今後の地域との関り方の一つとして提示することができた例会になりました。



12月

～想いを紡ぎ未来へ～



これまでご尽力された卒業生に向けて、現役メンバーより労いと感謝の意をお伝えし、2023年度の活動報告と活動総括により1年間を振り返り、ご協力いただいた皆様へ今年度の活動をお伝えすることができました。



2部制にすることでメリハリのある進行ができ、1年間の活動を参加された皆様にご報告を行い、8名の卒業生に向けて感謝と敬意を表する卒業式例会とすることが出来ました。

事業報告

スノーバスターズ 2023

総務委員会主管

千歳市内の除排雪が行き届かない地域への奉仕活動として、スノーバスターズを行いました。コロナ禍で3年ぶりの開催となりましたが、多くの企業の方や、自衛隊の皆様のご協力をいただき地域の皆様に感謝をされる事業を実施することができました。



ローカルブランディング セミナー

室長主管



近年の積極的な出向など日々の活動によってもたらされた機会を掴み取って実施することができた今回の事業では、青年会議所が提供する機会の尊さについて身をもって実感することができるものとなりました。日本のトップレベルで活躍される先輩による講演は青年会議所のスケール感の大きさを表現できるものとなりました。

千歳青年会議所 OB総会

OB・現役合同懇親会

3月4日にOB総会が行われました。
終了後には現役メンバーを含めて懇親会が
行われ、多くの先輩方と交流する機会を
いただきました。



千歳ウェルカム 花ロード ver.21

広報渉外委員会主管



ウェルカム花ロードでは北海道の空の玄関口である新千歳空港周辺で北海道に訪れる方をお迎えするため、関係諸団体と連携を強化し、地域の子ども達と交流を楽しみながら作業を行いました。今年で21回目となるウェルカム花ロードは、沿道へ花を植えるだけではなく、定期的な除草で夏の北海道を訪れる観光客の皆様や、道路を利用する地元の皆さんへ元気を届ける活動となりました。



RIVER CITY PROJECT ～CHITOSE みらい EXPO～

地域德育推進委員会主管

10年目を迎える事業として本年度は教育的観点から環境と国際交流にフォーカスし実施いたしました。飲食ブースでは外国籍の方が自国の料理を提供し、様々な国の方にご来場いただくと共に、未来と環境の観点からデロリアンを展示し、多くの来場者に楽しんでいただくことができました。またフィナーレには「10年後の千歳みらい予想図～ワクワクする千歳のみらいを描く～」と題して約1000通の「千歳みらい予想図」を園内に埋設し10年後の2033年07月30日(土)に開封式を行います。



千歳市民 納涼盆踊り大会

広報渉外委員会主管

千歳の夏を締めくくる、千歳市民納涼盆踊り大会を舞台に、今年は1人ひとりペンライトを両手にもち、背中にはQRコードを背負って参加いたしました。多くのメンバーが参加し、千歳市民の方々に千歳青年会議所の運動や活動を知っていただける機会となりました。



直前会頭セミナー

運営総括室主管



「圧倒的リーダーシップ」をテーマに、第71代 会頭 中島 土 先輩に講師として実践と学びから得た本気のご講演をいただきました。第一部では中島直前会頭の現体験から、JCだけではなくこの組織から得た学びを社業やプライベートで活かすことができるアイデア、ビジネスへのヒントとなるような講話をいただきました。「リーダーシップ」を与えることができるよう参加者に対して激励のメッセージをいただきました。

川清掃事業

総務委員会主管

千歳の中心を流れる千歳川。市民の皆様が心を寄せる財産とも言えるこの千歳川を、地域の方々と協力して川の水質維持と景観を整えるために市民の皆様、自衛隊の皆様にご協力をいただき事業を実施することができました。

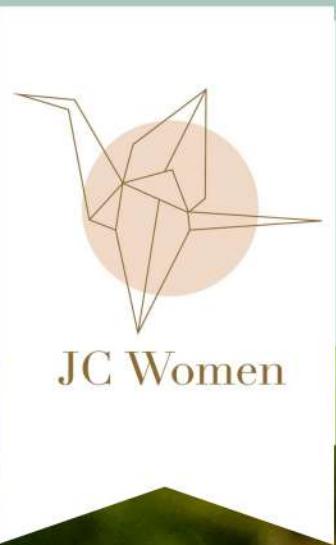


PICK UP pictures

6月例会 未来を変える CHITOSE DREAM コンテスト



特集 JC Women



会員拡大の取り組みの成果が実り、本年度は賛助会員として9名が入会し、総勢17名の女性会員が在籍する組織となりました。

その中には海外にルーツをもつメンバーや、子育て真っ最中のメンバー、千歳で起業したばかりのメンバーが入会するなど多様性に富んだメンバーが活躍し、子供や外国人を巻き込んだ事業や例会に、メンバーが子連れで参加できる機会をつくり、女性が活躍しやすい組織づくりを行っています。



男性だけじゃなく
女性が活躍することが
分かって良かったし、
輪にも入りやすかった

いろいろな職種の女性メンバーと出会えて、
情報交換や仕事でのつながりができました。
今後は女性会員が増えることで
女性目線の例会を行いたいです。



RIVER CITY PROJECTや盆踊りなど
対外に向けた事業が多く、
やりがいを感じる活動が多くありました。

次年度に向けてはもっと
子ども連れでも参加OKな場が
増えると嬉しいです。



委員会活動報告

会員拡大会議

感謝と楽しさの1年!
拡大のプライド胸に!



会員拡大会議では30名の会員拡大を目標として活動してまいりました。会員拡大を成功するべく日頃からの拡大活動と共に担当例会である2月例会と8月例会を構築いたしました。開催した公開会議では議案の書き方や会員拡大を進めるうえでのポイントを参加者にお伝えする機会を提供することができました。入会目標人数を達成したことでの会議体メンバー1人ひとりが自信と達成感を共有することができました。また、入会してからのフォローアップに重点を置き、多くの勉強会を重ね明るく楽しい会議体を目指して最後まで担いを全うした1年間にすることことができました。

伝統調査委員会

紡ぐ伝統!
受け継ぐ意志を胸に!



伝統調査委員会はOB会員である先輩諸兄姉の皆様とのつながりを今まで以上により強固な関係を築くために委員会メンバーと共に1年間活動して参りました。その成果の場として9月例会を開催し多くのOB会員の皆様にご参加していただき交流を深めることができました。入会歴の浅い委員会メンバーが多い中で互いに協力し、成長しながら一歩づつ前へ進むことのできた2023年度となりました。公開委員会では、OBの先輩を講師としてお招きし、当時のお話を聞く機会を提供いたしました。OBとメンバーの関係強化に尽力した1年間にすることことができました。



ふるさと愛釀成委員会

まちの価値を発掘！
ふるさとの誇りを胸に！



ふるさと愛釀成委員会は市民のふるさと愛を深めるべくまちの歴史と文化を通じて価値を発掘するため一年間活動して参りました。3月例会では千歳の文化の中心地・千歳神社において例会を行い6月例会では千歳市内の学生の声を直接届けるべくCHITOSE DREAMコンテストと銘打ち、プレゼンコンテストを行いました。残念ながら11月事業は中止となってしまいましたが、ふるさと愛釀成に邁進した一年となりました。公開委員会では例会に関する内容や、委員会メンバーが講師として話していただく機会を提供し、まちに対してしっかりと向き合った1年間にすることことができました。

地域德育推進委員会

子供たちの未来！
原体験を胸に！



地域德育推進会では4月例会と10月例会を担当し、国際交流と子供たちが地域に関わる重要性についての例会を実施いたしました。また、10周年の節目を迎えたRIVER CITY PROJECTでは、子供たちが10年後の千歳の未来を描いたタイムカプセルを親水公園に埋設しました。公開委員会ではRIVER CITY PROJECTをより良い事業にするために講師としてOBをお呼びしました。国際交流の観点から地域の子供たちとの深い関わり方を提供し、委員会メンバー全員で取り組むことができた1年間にすることことができました。



広報涉外委員会

情報発信の強化！
共感の輪を胸に！



広報涉外委員会はSNSを通じて様々な方たちに千歳青年会議所を知ってもらうために広報活動を行って参りました、11月例会では「GO! GO! パトロール」と題した例会を行い、メンバーでまちをパトロールしながら地域の課題を知ることが出来ました。継続事業である千歳ウエルカム花ロードでは多くの市民や関係諸団体の皆様と清掃や植栽などの道路美化活動に取り組み、公開委員会ではSNSで活用できる写真・動画撮影の工夫をテーマに、委員会メンバーから学んだ知識を社業やプライベートで活用できる内容といたしました。委員会メンバーと共に歩むことができた1年間にすることができました。

総務委員会

変革の起点！
リスペクトを胸に！



総務委員会ではメンバー同士が信頼関係を築き、発展し続ける地域社会に対し柔軟に対応できる組織作りを目指しました。その第一歩として5月例会では帰属意識を高める例会を開催し、10月第2例会ではより良い会議をテーマに委員会プレゼンを中心にメンバーにお伝えいたしました。公開会議では、地区出向に興味をもっていただける内容を会務担当副会長である生杉 隆礼君に講師として学びを提供していただきました。時代に即した組織運営を実行するために定款諸規程を見直し、委員会一丸となり全メンバーが活動しやすい環境を作ることに取り組んだ1年間にすることことができました。

室ギャラリー

人材拡大推進室

今年度は理事メンバー以外にも議案構築、運動が創られていくプロセスに触れる機会として担当ラインミーティングが設けられました。会議体、委員会が互いの議案に関わるなかで自然と力をつけ、実働では頼り合うことで負荷が分散され大きな力を発揮するようになりました。



地域価値発掘室

地域価値発掘室では、まちの課題と地域における教育の観点の議論の場として、多くのメンバーにラインミーティングに参加していただきました。会議を行う場の工夫や意見しやすい環境を追求し、メンバー一人ひとりが活発に会議に参加する意義を示すことができました。



運営総括室

運営総括室では、ラインミーティングを活かして連携を図り、組織にとって中枢を担う重要な責務であることを自覚し、メンバー一人ひとりの存在価値を高めて、変えるものを変え新たなチャレンジを行い笑顔あふれる未来に向けて夢を描き続けられる組織となりました。





公益社団法人日本青年会議所
北海道地区協議会会務担当副会長
生杉 隆礼



公益社団法人日本青年会議所
LOM支援委員会委員兼
北海道地区協議会LOM連携会議議長
大久保 景右

今年度の担い

生杉 会務担当副会長として、防災と環境そして地区大会を担当しました。国土強靭化委員会は幸いにも大きな災害がなかったので、医療ネットワークや防災意識を高める活動を、持続可能な北海道確立委員会ではゼロカーボンをいかに自治体と民間で共同で進め発信していくかということを推進しました。地区大会運営委員会では、これまでの経験があつて岩田会長から任命されたのが今年の担いでした。

大久保 地区の担当は3つってことですか？

生杉 そうだね。こんなに地区大会ばっかりやってる人もなかなかいないと思いますけど 笑

大久保 いないよね。地区大会はやっぱり特別なものなんですか？

生杉 やっぱり特別だね。北海道以外ではどっちかというとブロック大会がメインで。でも北海道の場合は地区大会としてあれだけの規模で70年やってきているものだから。大久保君は議長どうでした？

大久保 僕はLOM連携会議の議長という役をいただき、日本青年会議所や北海道地区協議会の運動をLOMの皆さんに知りいただき、運動に役立たせていただく。そしてLOMが抱えている問題を吸い上げ解決に導いていく。それが大きな担いでした。

僕が出向してなかった時は、そもそも北海道地区協議会って何？公益社団法人日本青年会議所？？その距離感があって。そこで、本会としても基本的にはLOMありき、会員会議所が本会が存在しているという逆のピラミッドを明確に具現化するためにLOMを積極的に支援することに特化した。さらに理念共感拡大デザインでは、集める拡大じゃなく集まる拡大、人が集まる組織にして行けば自然と組織が強くなっていく、というものも推し進めていました。

生杉 地区協議会で一番大事にするのが総合連絡調整機関という立ち位置で、LOMが何を求めて支援してほしいのかを第一に考えていく。だからこそLOM連携会議に当然期待も集まるし、むしろこの会議体が何もやらなければ地区協議会の意義がない。お金を預かっている以上はLOMに少しでも還元できる協議会じゃないと意味がないし、だからプレッシャーはすごく大きかったと思うんだよね。

大久保 何かある度に僕の顔色を見て声かけてくれるのは生杉君だった。正副やってると本当は優しい声をかけちゃいけない場面とかあったと思う。多分ね。でもそういう時でもふわっと声かけてくれてたから、それは非常に僕の中で助かったことがありましたね。

生杉 ラインをすっ飛ばしてフォローするわけにいかないっていうのはあったけど、北海道全体が良くなれば、正副のみんなは大久保議長をサポートしてたんじゃないかなと思うよ。

大久保 北海道を良くしていくにはブロック編成が1番大きな担いで、LOMがより良くなる運動を発信・共有できる関係性を作るためには、組織編成のアップグレードが必要だと本会でも推進がされていました。

生杉 北海道は43LOMあって、それを全部一つの協議会で支援したり、全部に声を届けるのは無理だと。そこでブロックの再編成が出てきたんだよね。

大久保 いい経験はさせていただきましたよね。あの1番最後の会員会議所が1番印象に残ってる。全理事長から審議いただきなきゃいけないっていう状態で。あれが僕は一番のプレッシャーでしたし。

生杉 最後に山場を迎えるとはね。

大久保 千歳青年会議所の看板を背負ってる体裁があったから、凄い人達が多い中で、年間を通してここだけは絶対バシッと決めなきゃダメだと常に意識してた。言われてることめちゃくちゃ理解できるし、これはまずいぞと思いながら、でも絶対取り下げは無理だと思って。

生杉 よく踏ん張ってたと思うよ。

一生懸命上程してたと思うしあの姿はそれだけ1年間向き合ってきたからこそ、答弁できたと思ってる。中途半端な状態で最後の審議まで来てたとしたら、あそこで通ることはなかったかもしれない。

出向者対談

活動報告

社業・家庭・JCのバランス

生杉 最初は、自分の枠が100の中で50仕事、50家庭って感じだったけど、歴を重ねるうちにキャパが150とか200に広がるんじゃないかな。役職を受ける時にも、できない話は来ないだろうから自分はできるって思い言い聞かして精一杯やると、何とかなったりするんだけどね。だからできないことはないと思ってる。

大久保 僕が受けたときは真逆。一瞬だけ迷った。前年に千歳のメンバーが辞めた経緯があるのに出向出来ることは、生杉さんとか三澤さんの実績という千歳青年会議所の看板を背負うということもあって、覚悟を決めた。でもLOMでは室長で。このバランスはすごい僕の中で難しくて、もっとこうすれば良かったとか反省は凄くして、みんなには迷惑かけたけど、自分ができなかった経験は今後しっかり伝えていきたい。社業に関しては会社は意外と理解してくれて。メンバーが来店して話をしてくれると、僕じゃないところからも情報が入る。だから青年会議所の活動の理解が年間を通してできたと思うし家族との時間は減ったけど、遠くの会議に連れてったりはしました。旅行みたいに。ちょっと行くから一緒に行かないかみたいな方法は僕も使います笑

生杉 家族と行くのはいいよね。説明してもうまく伝わらないし、俺も初めて地区に出向した時は大変だった。家族からはまた今日もいないって言われるし、社員にも会社を不在がちにして申し訳ない気にもなるし。でも役員経験した人が言うのは「やってよかった」なんだよね。受けたら必ず大変だけど、終わってからやっぱりやってよかったってなるには、どれだけ真剣に向き合ったかじゃないかな。それは役員じゃなくてもだけど。

これからの千歳青年会議所

生杉 出向のチャンスはできるだけ与えてほしいとは思ってる。自分の能力が上がるのもそうだし、いろんな人脈や友情が育めたって実感してるから。

大久保 例えば委員長やります!って言った所でできないですよね。誰かのバックアップや推薦があったり。

生杉 それはLOMで成果を上げれば、自ずと声がかかってくるはず。やってみたいなって思いがあるなら今ある役職を精一杯やれば誰かが声をかけてくれる。もちろん自分から言うこともいいけど、まずは1つずつ自分の役職を全うすることが大事。

大久保 地区に出向して1番感じたのは千歳青年会議所の注目度。瀧さんのような人達が枠を確保して存在価値を上げてきたからこの立場に立てたんだって感じた。与えられた役をしっかりとこなしていくべき本当に自然と声がかかるものだと思う。千歳は各地のLOMに例会とか見られてるから!

生杉 毎年役員を輩出しているからね。

大久保 今まで出向したメンバーが必ず言っていた。出向は結局しなきやわかんないって。まさにそう。もし機会があれば是非チャレンジしてほしい。

生杉 これからメンバーが、千歳で活動していることへの誇りと千歳のプレゼンスを高めていく意識をもつていれば、もっともっと千歳は伸びていくと思う。

大久保 間違いない。

生杉 特に三澤さんはそのプレゼンスを高めてくれた第一人者だと俺は思ってる。たまに厳しいけど笑

大久保 「千歳は理事会にもあの人達いるんでしょ? きつっ!!」みたいなことも言われました。来年の理事構成メンバーは瀧さん、生杉さん、三澤さん、監事に高橋さん、佐藤さん、直前に富樫さん、最強やん笑 地区協議会やん。恵まれてる。上程する側からしたらうわーってなるかもしれないけど、決して後ろ向きじゃなくて、ある程度道筋を示してくれるような方々で。アドバイスもくれるし、会議が終わったらさ、普通じゃん笑

生杉 そなんだけよ。千歳の例会や事業の質は地区に匹敵するレベルだと思う。だから地区協議会への出向のハードルは高くないし、LOMでしっかり教育ができた状態だから大久保君みたいに素晴らしい議長が千歳から輩出されることになる。他のLOMの例会とか事業構築とか知って比較してもいいかもしれないね。先を見て、ここまで会議で揉んで例会や事業を構築をする千歳のレベルはマジで高い。

大久保 例会が月1じゃない所もあるし、報告議案もない所もある。千歳では当たり前だけどそういうこともあるのは、出向して分かった。それだけ千歳の教育体制は充実してると感じた。

自分が千歳青年会議所のメンバーとして活動していることが自信につながってほしい。

生杉 だからこそ、委員長は大変だと思うけど妥協はしないで欲しいよね。これくらいでいいかと思ったら、もったいないし。LOM全体の成長のためにも、みんなで頑張っていきましょう。

活動報告(日本青年会議所出向者)



Junior Chamber International
JCI Foundation Committee
Member for Asia and the Pacific
公益社団法人日本青年会議所
国際グループ JCI関係委員会 兼務委員

瀧 雄一

本年度は、2022年度JCI世界会議香港大会の総会において、2023年度JCI役員の担当国及び指名委員の発表があり、JCI基金委員会の指名委員として、国際青年会議所への出向の機会をいただきました。

JCI基金は、国際青年会議所のプログラム及び活動を財政的に援助するために設けられており、この基金を通じて、これまでに新たに必要となったプログラムを実施することができるようになり、世界中の地域社会を援助し、強いては明日の指導者を育成してきました。任期中は、JBMやMYEはもちろんのこと、JCIアフリカ・中東地域会議、JCIアメリカ地域会議、JCIアジア・太平洋地域会議、JCIヨーロッパ地域会議、JCI世界会議など、様々な国際の機会へ参加し、JCI基金の寄付を募ることはもとより、JCI基金の認知度向上に尽力して参りました。

また、各エリア会議では、JCIの目的推進、JC運動に関する各種セミナー、グループ討論の開催、JCプログラムによる参加者教育、JCI中間常任理事会に提出するための総会議決事項の確認、アワードセレモニーなど、同じ志をもった仲間たちとの友好関係や協調関係を築き上げるための機会となっており、国際青年会議所への出向者の一員として、JCI基金の枠を超えて、様々な学びをいただきました。

世界各国、日本各地の多くのメンバーと一緒に活動できたこの1年は、自分にとって、かけがえのない有意義な経験되었습니다。

Be Better(よりよくあれ)

国際青年会議所の運動を通じて、恒久的な世界平和が実現されることを心から願っています。

公益社団法人日本青年会議所
LOM支援委員会委員兼
北海道地区協議会
LOM連携会議議長

大久保 景右



公益社団法人日本青年会議所
国際アカデミー委員会委員兼
北海道地区協議会
道央エリア運営会議議員

伊藤 香織



活動報告(北海道地区協議会)

LOM連携会議



高木 克祉



斎藤 創



土居 潤哉



沼田 大喜

地域経済活性化委員会



安部 優雅



沖元 丈二

地区大会運営委員会



稲葉 セドリック 林 征希



道央エリアアカデミー



井上 慎也



山根 勇人



沖元 丈二

財政特別委員会



土門 哲也

持続可能な 北海道確立委員会



茂木 絵里花

総務運営委員会



鈴木 丈弘

京都会議 2023

Remember your Dream

[AWARDS JAPAN 2022]

1月20日(土)に様々な部門からなる
最優秀賞を決める授賞式が執り行われました。
その中で千歳青年会議所が
拡大優賞純増部門 優秀拡大LOM賞
50名以下の部にノミネートされました。



道央エリア事業 AWARD 2023

最優秀賞

LOM地域向上プログラム部門

6月例会未来を変える
CHITOSE DREAMコンテスト

組織間協働プロジェクト部門

RIVER CITY PROJECT
～CHITOSE みらい EXPO～

優秀賞

会員拡大多様性部門

会員拡大会議

特別会員褒賞

2023年度の特別会員褒賞は日常的に行う行動の重要性を再認識していただき個人と室に対して褒賞いたしました。

1月 ベストアンケート賞

2023年1月10日に執り行われた新年交礼会に出席し、当日の動きや関わり方で、一番目立っていたメンバーを高橋筆頭副理事長に選考していただき褒賞を行いました。



受賞者 島本弓樹文君

3月 スプレッドライン賞

3月例会の出欠シートに縦ラインのグループを設け、出欠スプレッドシートに一番早く出欠をつけたラインを選考いたしました。主管する総務委員会が最速の室に対して褒賞いたしました。



受賞者 運営総括室

5月 総務カップ賞

コミュニケーションの活性化を狙ったソフトボールを行い、そのなかで一番活躍したメンバーを佐藤監事と村井監事にそれぞれ1名ずつ選考していただき褒賞を行いました。



受賞者 水田尚子君



受賞者 土門哲也君

7月 CHITOSE RIVER CITY PROJECT賞

準備段階から当日までの動きで一番目立っていたメンバーを生杉直前理事長と瀧顧問にそれぞれ1名づつ選考していただき褒賞を行いました。



受賞者 伊藤洋平君



受賞者 松尾真平君

8月 ダンサー・イン・ザ・LOM賞

8月18日に行われた千歳市民納涼盆踊り大会にて
一番目立っていたメンバーを
土門副理事長に選考していただき褒賞を行いました。



受賞者 斎藤 創 君

10月 フラワーパーフェクト賞

5月から10月までの期間で実施された千歳ウェルカム花ロード
に参加したメンバーで一番目立っていたメンバーを
三澤顧間に選考していただき褒賞を行いました。



受賞者 井上 慎也 君

11月 Impact賞

11月1日から11月20日の期間で2023年度と2024年
度の動きが大きく、その中の活動で一番目立っていたメンバーを
吉田専務理事に選考していただき褒賞を行いました。



受賞者 吉田 裕基 君

12月 ベスト・オブ・メンバー賞

2023年度において、誰よりも活発に
青年会議所活動に取り組んだメンバーを
富樫理事長に選考していただき褒賞を行いました。



受賞者 米田 大樹 君

年間MVP

MVPを一番多く獲得し、年間MVPに輝いた
井上 慎也君には特別会員褒賞 担当委員会委員長
鈴木総務委員長から褒賞を行いました。



受賞者 井上 慎也 君

会員褒賞

2023年度の例会出席率100%の
会員の皆様に対して褒賞いたしました。



伊藤 香織



沼田 大喜



中田 愛



高橋 孔明



島本 弓樹文



米田 大樹



伊藤 洋平



土居 潤哉



土間 暢也



富樫 昭大



吉田 さやか



一般社団法人千歳青年会議所

事務局

〒066-0042

千歳市東雲町3丁目2番地の6 千歳商工センター1F

TEL&FAX 050-3588-2436

ホームページ <https://chitose-jc.com/>

E-mail mail@chitose-jc.com